

H28 同窓会会報 SGH の現状 (0223 初稿)

平成26年度から5年間、文部科学省のスーパーグローバルハイスクール(SGH)に指定され、将来のグローバル・リーダーの育成に力を注いでいます。

3年目となる今年度は、昨年度までの2年間の取り組みに対して、文部科学省による中間評価が行われ、「中等教育学校の特徴を生かし、6年間を貫いた計画の下、探究的な取組が系統的に行われており、グループ研究、個人研究、学校行事については、大学・企業との連携を通じて、当初の計画以上に進んでいる点が評価できる。一方で、国内外の大学との連携については、専門性の高い指導や高大接続の改善が必要である。」等のコメントをいただきました。

研究開発の中心となる4つの柱は、グループ研究の「World Citizen 科(学校設定教科)」、個人研究の「地球市民育成プロジェクト(総合的な学習の時間)」、海外フィールドワークやグローバルウィーク、イングリッシュキャンプ等の「SG(スーパーグローバル)学校行事」、課外活動の「明石プロジェクト」であり、このうち3つの取り組みで好評を得ました。

残る1つの「明石プロジェクト」も、昨年度から軌道に乗り始め、今年度は70名を超える生徒が6つのゼミに分かれて、毎週2回、昼休みを中心に明石ルームを会場に、課題研究等に取り組んでいます。また、今年度は生徒会の正式な組織となり、学校外での活動も可能となったことから、全国大会出場等、大きな成果を上げてきました。

例えば、全日本高校模擬国連大会(模擬国連ゼミ)、SGH 関東甲信越静岡大会(He For She ゼミ、ESD 環境ゼミ)、全国SGH 校生徒成果発表会(ハワイ研修ゼミ)に初出場を果たした他、英語ディベートゼミは昨年度に引き続き全国大会へ出場し、ハワイ研修ゼミは3月にはSGH 甲子園出場が決まっています。

また、ハワイ研修ゼミの中心となるハワイ島での海外研修は、中央大学・ハワイ大学との連携により、昨年度から8月に1週間の日程で実施しているもので、3～5年生の希望者から選抜された12名が参加できます。5年生のシンガポール修学旅行(海外フィールドワーク)、4年生のボストン等への地球市民研修(選抜30名)に次ぐ、3つ目の海外研修として、課題研究に関するフィールドワークや現地校(ヒロ高校とワイアケア高校)との研究交流、ハワイ大学ヒロ校訪問、ホームステイ等の特徴にしています。

なお、明石プロジェクトの活動単位であるSGゼミは、生徒の希望により組織するもので、来年度は

群馬イノベーションアワード(GIA)ゼミが加わることになり、すでに生徒は活動を始めています。

一方、改善を指摘された「国内外の大学との連携」については、大学の関係者との協議を重ねた結果、互いの事情等をよく理解することができ、より円滑に連携できる体制が整いました。

本校の連携大学は、中央大学、群馬大学、群馬県立女子大学の3大学です。

中央大学からは多くの教員と学生が授業の指導に来校するほか、何人もの留学生を派遣していただいています。また、毎年打ち合わせ等で教員が訪問したり、昨年度は生徒が訪問して課題研究の指導助言を受けたりするなど、連携の中心となる大学です。

群馬大学と群馬県立女子大学からは、7月・9月・2月・3月に実施している校内発表会(7月・9月・3月は学校関係者に公開)での指導助言者として多くの教員・学生を派遣していただいています。また前期課程の授業では、群馬大学からは留学生、群馬県立女子大学からは外国人教員も派遣していただいております。全体では昨年は100名近い外部講師が来校しました。

来年度からは、年度当初の全体講義や発表会での指導助言にとどまらず、研究の過程で研究内容に関する指導助言を得られるように協議を進めており、すでに派遣していただく教員の内諾を得るなど、改善がなされています。

また、すでに5年間の指定終了後のことも検討を始めており、内容や授業担当者などは、毎年見直しているほか、次期学習指導要領が始まる平成33年度までのカリキュラム構想を立てています。

本校ホームページにも、SGHの活動を紹介する写真やコメントのほか、生徒の研究論文や研究発表、実践報告書等を掲載していますので、ぜひご覧ください。

なお、SG学校行事の一つである「日本の伝統文化体験」では、来年度は、日本舞踊等の文化・芸能の指導をしていただけるボランティアを募集いたします。併せて課題研究の授業で実施しているグローバルビジネス講座ではグローバルな企業展開をしている事業者の方々に講師を依頼しています。同窓会会員の皆様にも、趣旨にご賛同いただけましたら講師をご承引いただけますようお願いいたします。